

しのめ

発行 ● 鳥取県立鳥取東高等学校同窓会 東雲会

鳥取県鳥取市立川町5-210 〒680-0061

TEL 0857-22-8495

FAX 0857-22-8497

Eメール torie-h@mailk.torikyo.ed.jp

出版 ● 株式会社 サラト

兵庫県姫路市北条宮の町172 〒670-0948

TEL 079-284-1380

FAX 079-224-7746

題字 柴山抱海氏 (特別会員)

平成25(2013)年
入学式

色紙 柴山抱海氏



昭和13(1938)年 入学式を終えて

和やかな教室風景
(夏服)

ユニフォームもあでやかに 書道部

昭和20(1945)年 登校 奉安庫に敬礼
昭和12(1937)年 全国すべて制服は戦闘帽、国防色、ゲートル姿に

制服は時代を映す鏡



鳥取東高等学校同窓会東雲会

副会長 谷口 肇 (山8)

しのめ館(同窓会館)の階段の登り口にコデデュロイ(コール天)の制服を着た人形が皆さんを待ち受けている。この制服はマンサード型の講堂と並んで鳥取二中のシンボルであった。

今号では制服にスポットを当ててみようと考えた。元来、制服には組織に帰属していることを示すとともに品位と規律を保ち共通の意識と連帯感を強める役割がある。

コール天、国防色にゲートル姿、弊衣破帽、セーラー服、ブレザー等、時代と男女の相違はともかく、懐かしい高校時代の青春の思い出の像は必ず制服姿で甦ってくる。「白線流し」や好きな人の心臓の傍に三年間いた「第二ボタン」を欲しいと願う青春の思いは時代を問わず制服との二重写しになる。

私はこの機会に鳥取東高五〇年誌・八〇年誌を紐解いて服装の変遷に関する部分を拾い読みしてみた。

制服の歴史は、驚くほどそれぞれ時代とシンクロしていることが分かった。

大正デモクラシーの息吹を

受けたハイカラな折り襟のコール天の制服で闊歩した二中創立当時、軍靴の音が響く昭和二年には、全国一斉に国防色二色に塗り替えられた。そして昭和二〇年代、戦後の物資不足の下で「仕方なしの服装の自由化」。

続く昭和三〇年代、戦後の復興と共に現れた華美に流れるファッション競争の自制が制服の制定に繋がっていった。

そして今、貧困家庭の増加の結果として「入学式に制服買えず欠席」という。(二月一七日付西日本新聞)戦後に逆戻りしたのかと目を疑う。

制服には一定の統制や画一化等の悪弊が付随する。

だが教育の場在っては、個性を追求し、枠に嵌る事を嫌い、弊衣破帽やマンボズボン、ルーズソックス等で意気たるを包摂する懐の深さがあるて然るべきだと思ふ。

少なくとも、国家が号令し国防色にゲートルをすべての学校で強制し、拳の果ては若者を戦場に送りだしていったあの悪夢の時代に逆戻りする愚を繰り返してはならないと思う今日この頃である。

教育には 生命がある



校長
尾室 真郷
(山29)

同窓会「東雲」の皆様におかれましてはますますご健勝にて各界において多彩な活躍をされておられることに心からお慶び申し上げます。また日頃より本校の教育活動に暖かいご支援とご協力をいただきお礼を申し上げます。私は藤原辰広校長先生の後任として本年度より校長を拝命しております尾室真郷と申します。精一杯母校のために頑張りますのでよろしくお願い申し上げます。

私は昭和53年3月卒業の山脈29回生です。学校というのは現在の生徒に対して、また将来入ってくる生徒に対しても教育の責任があると思うと同時に、過去の生徒に対してもそれなりの責任を負わなければならないと思います。また過去から続いた現在の中に歴史と伝統を意識して現在から将来への継続のなかに発展と進歩を期待します。そのつながりの人間集団が醸し出す情緒的、人間的雰囲気は長い年月の間に醇化され定着化して校風と言つものを形成するものであると思います。教育というものは「生きもの」なのです。同窓会に出席するたびに県外に住むも

東京支部 平成二十七年 東京東雲会開催のご報告

東京東雲会会長
鈴木 誠 (山5)



東京東雲会(東京)
東京東雲支部の
平成二十七年総
会は、七月四日千
代田区霞ヶ関の
法曹会館で開催されました。

総会は、校歌斉唱、会長挨拶のあと、鳥取からご来賓としてお越しいただいた八村輝夫東雲会会長、藤原辰広東高校長先生から故郷発展の状況や、母校の活躍振り等のご報告をいただきました。そして、岸本郁男幹事長の会計報告などがありました。

総会のあとに続いて恒例の中島睦夫さん(元テレビ朝日プロデューサー、山5)企画によるマジックショーなどがあり、鳥取から贈っていたいただいた竹輪やスィカをいただきながら楽しい時を過ごし、最後は高級品の当たるラッキーカードの抽選などで盛り上がりしました。

私の期山脈五回のごで恐縮ですが、平成二十七年に八〇歳となり、傘寿を迎えることになりました。そこで、一年位前から準備をし、六月に一泊二日の盛大な祝賀の会を行いました。故郷鳥取をはじめ全国から三四名の同級生が集まり、東京浅草のホテルで一泊二日を過ごしました。ホテル上階のパーティー会場からは、正面に東京スカイツリーを眺め、眼下にライトアップされた浅草寺、そしてその上には我々を祝ってくれ

るかのように満月がのぞいていました。夜の更けるのも忘れ、昔話に花を咲かせていました。

二日目は東京スカイツリーの眺望、隅田川水上ツアー等を楽しみ、そのあと一同日比谷のレストランへ移動し、長時間談笑し、別れをおしましました。次は東京五輪で会おうとか、いや米寿の会をやるうなど話がとびかい、本当に楽しいひとときでした。

東京東雲会総会は毎年七月の第一土曜日の午後四時三〇分から日比谷の法曹会館で行っていましたが、平成二十八年度からは、時間を繰り上げ、午後〇時三〇分から開催することとしました。会費は一般会費五千元、学生さん千円でもれなく大山カリーのお土産があります。どうぞお誘い合わせの上ご参加下さい。



京阪神支部 平成二十七年京阪神東雲会 総会・懇親会を 盛大に開催

当番幹事 片山 学 (山32)

第65回京阪神東雲会(鳥取二中・鳥取東高同窓会)総会・懇親会を11月21日(土)に大阪キャッスルホテルで開催しました。来賓に八村東雲会会長、藤原鳥取東高校長、村上鳥取県西本都主幹、福田同窓会事務局次長をお迎えし、総勢60名が参加しました。

まず、総会の開催にあたり、岡田京阪神東雲会会長、来賓の方々から挨拶を受けた後、議事であります平成26年度の会計報告と今後2年間の役員を承認し、滞りなく総会を終了しました。

引き続きの懇親会では、恒例となつている当番幹事と有志による「しゃんしゃん傘踊り」や、鳥取の今を問う「鳥取〇×クイズ」を行いました。

このほかに、昭和30年代に撮られた鳥取東高の写真の披露や、鳥取東高にちなんだ「鳥取東高〇×ゲーム」のテーブルでの団体戦を行いました。この「鳥取東高〇×ゲーム」は、出席されている校長先生に内緒で、東高同窓会の協力を得て問題を作成しましたが、さすがに校長先生のおられるテーブルが優勝されました。

会場は終始笑いが絶えず、先輩、後輩の世代を越え、京阪神在住の同窓生の交流を深める絶好の機会となり、懐かしい時間をともに過ごすことができました。



最後に、「校歌」を合唱し、来年秋に開催される総会・懇親会での再会を期して、盛会のうちに閉会しました。当番幹事を担った今思うことは、京阪神東雲会会員にとって、この鳥取東高である母校が「ふるさと鳥取」の原風景の一つであり、世代を問わず共通の心の拠り所であることを改めて思い至ったことでした。そのため、微力ではありますが、鳥取東高の心の絆をしっかりと次の世代にバトンタッチし、この会のますますの発展に寄与することができたらと思っております。

国府支部 東雲会国府支部 設立50周年記念 講演会を開催

支部長 岡垣 宏治(山13)

当支部は50年前の昭和40年に結成されました。初代の故金田泰雄会長に始まって、2代目が故野津英顕会長、3代目が故山田義美会長、4代目が土井寛会長、そのあとをうけて現在に至っております。

当時青春時代を謳歌し、学舎でたくましく巣立っていく、明日の日本を背負って立つ学生たちを想い、歴代の会長方々並びに諸先輩の熱い遺志が、貫かれていたことは疑う余地もありません。その精神を受け継いで何とか後輩たちのためにと一途に取り組んできたところであります。振り返ってみるに一時、紆余曲折はあったものの今日まで持ちこたえて来ました。そこで、この節目の50周年に何とかしなければと思い、本来であれば総会と言う形式を考えましたが停滞している活動のこともあり、活気づけになればと講演会を計画しました。

去る、平成27年11月21日(土)午前10時から国府町中央公民館において、同窓会から清水副会長・森本事務局長・東高から古田副校長・原田教頭のご臨席を賜り、講師には当国府町岡垣出身で文化庁長官まで昇り詰められ、退官後は東宮大夫、最後は国立新美術館長で退任された林田英樹氏を講師にお願いしました。

講演内容は「教育・学術・文化と私」と題して、人生の大半を教育行政に

携わられた足跡の1コマ1コマを逸話を交えてお話をして頂きました。当日は近似年代ということもあり、その時々々の世相や社会の変遷が脳裏に浮かび上がってくる中で、片や日本の教育行政の中核で活躍して来られたことに、80数名の参加者にとっては深い感銘を受けざるを得ませんでした。(内容は割愛します。お許しを請う。)



同窓会報「しののめ」 第11号の協力金納入の現況

同窓会員の皆様には、多大なご理解とご支援をいただきまして厚くお礼申し上げます。

第11号の協力金納入は次のとおりです。

(平成28年3月14日現在)

★会員宛発送数	20,570冊
★協力金入金件数	1,671件 (前年比147件増)
★実質の協力金入金	2,473,380円 (協力金-振込手数料) (前年比230,030円増)
★必要経費(会報・封筒の印刷・郵送費等)	3,234,850円

★第10号の納入状況は、協力金が必要経費を約100万円下回っていました(赤字)。第11号では約77万円の赤字に若干縮まりましたが依然苦しい状況です。今後も一層のご協力をお願いいたします。

平成二十七年 会務報告

★六月、同窓会報「しののめ」第十一号を発刊しました。

★六月二十三日(火)創立九十三周年記念式典が挙行されました。

★七月四日(土)東京東雲会総会に

八村輝夫会長(山7)、藤原辰広校長(山25)、十一月二十一日(土)京阪神東雲会総会に八村輝夫会長(山7)、藤原辰広校長(山25)、新任の福田興志郎事務局次長(山53)の本部役員が参加し、交流を深めました。

★八月一日(土)本部同窓会総会が開催され、京阪神当番幹事の上月千絵氏(山32)をご来賓にお迎えいたしました。

★十一月二十一日(土)国府町東雲会

50周年記念行事(岡垣宏治会長・山12)が開催され林田英樹元文化庁長官(山12)(岡垣出身)が「教育・学術・文化と私」と題し記念講演がありました。

清水昭允同窓会副会長(山6)、古田嘉博副校長、原田晋一教頭(山35)、森本政司同窓会事務局長(山11)が参加しました。





表彰式 八村会長（左）、橋本実行副委員長（中央）、優勝の福本 俊（山9）氏（右）

第3回東雲会長杯
ゴルフコンペを開催

実務委員長
橋本和憲
山16

昨年10月12日（祝）第3回東雲会
長杯ゴルフコンペが鳥取カントリー
倶楽部吉岡温泉コースにおいて開催
されました。

前回は台風19号が九州・四国方面に上陸したものの進路がずれ、なんとか開催する事が出来ましたが今回は気候も安定し農作業も一段落する頃を選んだので大会日とし、予想どおり曇時々晴と絶好のコンディションで実施する事が出来ました。東京よりの参加者も含め約60名が和気あいあいのプレーを楽しむ事が出来ました。

組、各学年組、又職場の仲間等々、年令的にも安住会長の柏24回から山脈40回卒業の竹本さんと42歳の年の差はありましたが、誰が何歳かわからないプレー？で楽しい一日を終える事が出来ました。

プレー終了後2Fのレストランで

第4回東雲会長杯 ゴルフコンペへの案内

表彰式と懇親会が行なわれ、優勝の福本俊さん（山9）はじめ上位入賞者とB賞の竹本哲哉さん（山40）に特別賞等が渡され次の再会を願うとの解散となりました。

1、日時 10月10日(月)体育の日
2、鳥取カントリークラブ(吉岡)
において例年通り実施いたします。

①従来、ご案内している皆さまには、鳥取カントリークラブから往復はがきでご案内致しますのでお申し込みください。

②初参加ご希望の方は会長杯事務局

実行副委員長 橋本和憲

スポーツショップ・ハート

TEL 0857-121-7711

にお申し込みください。

柔道部の会友さんへ

中尾雅人 (山25)

伝統ある我が東高柔道部OB会は、半世紀の時を越えて今なお延々と素晴らしい活動をしております。例えば、現役部員に対し鏡開き（正月練習）、夏合宿への援助（差し入れと参加）と、多い時には30名ぐらい集まります。

また、毎年12月29日は総会と忘年会で懇親を深めます。25年前ゴルフの話で盛り上がりOB会ゴルフコンペ開催、当初は谷口博孝(山9)西山林一(山16)先輩の紹介で日本海ゴルフクラブ稲葉山コース、谷垣公一(山18)先輩のお世話で韓国、グアム、セブ島と海外コンペなど楽しいゴルフです。数年前

鳥取東高等学校同窓会東雲会
定期総会・懇親会ご案内

日 時 平成28年8月6日（土） 16時～
会 場 対翠閣（しいたけ会館）
鳥取市富安1丁目84
TEL 0587-24-8471
議 題 ①会務報告 ②平成27年度決算
③平成28年度予算（案） ④役員
会 費 4,000円

東京東雲会の夕べご案内

日時 平成28年7月2日（土）12時30分～
会場 法曹会館 千代田区霞が関1-1-1
TEL 03-3581-2146
会費 一般 5,000円 学生 1,000円

東海東雲会総会ご案内

日時 平成28年11月5日（土）
12時～14時30分

会場 名古屋クラウンホテル
名古屋市中区栄1-8-33
TEL 052-211-6633
（地下鉄「伏見駅」徒歩5分）

会費 男性：7,000円 女性：5,000円
夫婦同伴：10,000円 学生：2,000円
初めての方：3,000円

京阪神東雲会総会ご案内

日時 平成28年11月19日(土)
12時30分～15時30分

会場 大阪キャッスルホテル
(京阪電車・地下鉄谷町線「天満橋駅」徒歩1分)
大阪市中央区天満橋区京町1-1
TEL 06-6942-2401

会費 7,000円(京阪神地区会員は別途、年会費一口1,000円以上)



4校対抗、ゴルフコンペ参加をきつかけに、東雲会長杯、ゴルフコンペにあわせ、たWコンペで、さらに新しい仲間が増えました。

同じ釜の飯を喰った部員同志の縦の絆が太く強くなるだけでなく、同じ学舎で過ごした人たちとの輪も広がっていきます。多くの部のOB会の参加をよろしくお願いします。

飲んで、騒いで最後のしめは中井先生と当時の思い出話でおひらきです。

成績と参加チームの紹介

10	9	8	7	6	5	4	3	準優勝	優勝
位	位	位	位	位	位	位	位	勝	勝
伊藤みづる	井関 顕人	安住 庸雄	平井 耕司	松本 泰尚	谷詰 和史	森井 良二	奥村 正行	吉田 栄	福本 俊

天野	森	吉田	山村	前田	清水	岸本	安住	柏
博	輝	幹	八	八	昭	睦	庸	24・山
太	男	夫	壽	彦	允	雄	14	6・14

足立	山	真	福本	山	沖	伊	谷	山
12	12	根	9	9	藤	口	8	8
13	13	嶋	19	19	32	広	式	肇
克之	睦	茂	俊	俊	式	肇		

谷垣 公一 ²²/₂₅ ^{山18} 岡田 哲司 ^{山18} 田中 節夫 ^{山18} 森本 光明 ^{山18} 小谷 克男 ^{山18} 山口 正仁 ^{山18} 中川 義博 ^{山18} 矢野 正行 ^{山18} 奥村 順子 ^{山18} 金澤 嘉美 ^{山17} 安藤 宏宏 ^{山17} 山根 幸代 ^{山17} 橋本 幸雄 ^{山17} 森下 和人 ^{山17} 中道 正美 ^{山17} 尾崎 顕人 ^{山17} 井関 和典 ^{山16} 山本 道彦 ^{山16} 森根 浩一 ^{山16} 廣瀬 泰行 ^{山16} 小林 尚保 ^{山16} 松田 憲保 ^{山16} 岸田

竹本 前根 平井 古山 26 宮城 長尾 家根 26 龜山 山口 山根 23 長尾 吉田 大谷 20 森井 吉田 角脇 19 橋本 山本 古崎 16 松尾 中井 谷垣 16
哲伸 耕和 定隆 秀哲 慎淳 敏光 良一 和彰 和憲 久勇 雅俊
哉彦 司德 明久 男弘 38 秀行 男徹 41 也一 光博 41 二彩 史彰 32 憲吉 24 人明 30

特集 制服の歴史

意気揚々として闊歩した二中時代の思い

谷口 卓（柏11）



昭和13年卒業当時

服も国防色（カーキ色）に変わったもようである。

ただ、こうした比較的自由な二中でも配属された現役将校の厳しい指導での軍事教練は必須科目だった。

当時男子は二〇歳で徴兵検査を受け、二年間の兵役が義務化されていた時代だったので、学校教練も真剣だった。

私は、今年九五歳、先の大戦では、四年間、中国河北省の歩兵部隊で勤務に服し、戦後の二一年に内地に復員した。

戦争は悲惨なものであり、殺すか殺されるか、食うか食われるかの戦いである。

私は幸い元気で帰還できたが、たくさんの戦友を失った。

若くして前途ある若者が異国の土と化したことは痛恨に耐えない。

戦争のない平和な日本が何時までも続くことを願って止まない。

平成二八年一月九日

（九五歳、一九二〇年生まれ）

鳥取二中校章の由来

倉敷甚一郎（元職員）

（大正11〜昭和4・体操）

大正十二年四月三十日、諸規定完成（帽章（柏葉の徽章）、コールテン服（開襟）、黒色脚絆等毛決定ス）。これが他校に類例をみない鳥取二中

のシンボルであった。

最初の校章は、ただ『中』の字があっただけであるが、柏葉のなかに『中』を入れたのは、林重浩校長が質実剛健の校風を樹立することを提言され、柏葉を以てこの精神を象徴することになった。

論語に*「歳寒、然後知松柏之後凋也」。とあるが、創立にあたって柏葉が校章と定められたのも、松や柏の如く、他の草木の枯れ凋む中にすくすくと成長し大事難争に遭遇しても剛健にして、節操を失わず、気品高くあれと、若人の生長を願って制定されたものであろう。

『創立五十周年記念誌』より抜粋

*「歳（とし）寒くして、然（しか）る後に松柏（しょうはく）の凋（しほ）むに後（おく）るを知るなり」

*口語訳

気候が寒くなってから、はじめて松や柏が（他の植物の葉が枯れ落ちるなかで）枯れないで残ることがわかる。

（文責 編集委員 森本政司）



戦争中、柏葉時代

（二中）の制服を 思い出してみよう

中村忠文（柏21）

昭和十六年十二月八日、「大東亜戦争」が始まりました。

翌十七年四月、私達は旧制第二中学校へ入学しました。

制服は勿論カーキ色、ゲートルと云う足に巻きつける布を巻いた軍人姿でしたネー！

小学校時代は黒の折襟の服で、冬はコールテン等温かい服を着ていましたネー！

戦争中です。中学校には配属将校なる軍人が来ていて、毎朝校門の前道路の天神川角に立って生徒の登校をみていました。生徒は勿論立ち止まり敬礼をして通過したのです。

今は天神川に大きい東雲橋が掛けられ、立川大通（末広通り）まで広い道がつけられましたネー！

二年生の時、現米子空港である美保基地空港の建設に泊まりがけで動員されました。服はそのままだったと思います。

三年生になると、全く勉強なしで軍

需工場へ動員されました。これは何時までという期限は無かったですネー！

ついに翌昭和二十年八月十五日が来て、終戦の詔勅が発せられ、戦争は終わりました。勿論工場動員は中止、学校へ帰って勉強が始まりましたが、中学二年生位の勉強だったと思いますネー！制服の規制は無かったと思います。軍服のまま、昔の黒服等でも物の無い時代です、食糧も無かったです！木綿なら上等、藤や麻、木の皮等、又合成繊維のスフ等の布でした。つぎはぎだらけの服の人

も居ましたネー！困ったのは親でしようネー！襟は折り襟でした。現在町で学生の服を見ると、つめ襟でホワイトカラーをした人、昔の学生服姿の人、背広型でネクタイをした人等を見かけます。どうなっているのでしょうかネー！

処で、卒業時昭和二十年度四年制でしたから、四年で卒業した人が半数、又五年制も同時に発せられていて、五年まで居た人が半数、ですから柏葉二十回生と二十一年回は同期なのですよ！こんな事があった訳ですよネー！

過般二回の同期生会をやり新聞に写真を出しましたよ！



旧制中学時代、すべて軍の服装を模したもの（Googleの各種ホームページを参考にした）中村書

紐解く母校の歴史



鳥取二中の校章
(大正12年制定)



鳥取二中の校章
(和23年のみ)
(24)寄贈)



校外教授、玄武洞、全員、国防色、ゲートル姿、
軍事色一色に変わる



鳥取二中の校章
品ボタン

第1回卒業生



7期(昭45)~8期(昭49)
由宇喜三雄氏



画家
尾崎悌之助氏



第6代校長
三浦太樹雄先生



勅許による最高の制服。大礼服姿の林重浩初代
校長。鳥取県内で着用が許されていたのは、県
知事と地方裁判所長と林校長のみであった



この広告からオニタビスクールとからかわれた



霜降りの夏服

(写真撮影協力 ニシオ洋服店)



コールテン制服



昭和22年3月

私の二中人
学は太平洋戦
争敗戦の年。
当時、日本政
府は軍需品
不足を補うた
め、寺の鐘や家庭の鍋などまで金属製
品を供出させた。一方、国民の生活用
品は配給制や点数切符制で、学生服な
どは入手困難で、私は先輩のお古の学
生服で通学したのを覚えておる。

過渡期の時代に生きて
七つボタン、陶製ボタン

橋本 喜雄 (柏24)

特集
制服の歴史(続)

ただ、この服の入手についても記憶
がないが、敗戦で不用になり、ボタン
はのぞいて、政府が学校に配り、それ
を買ったのだと思う。

二中の校章入りの陶製のボタン
も、その頃、学校の購買で買ったもの
ではなかろうか。

二中では毎学年末にクラス写真を
撮っていた。手元にある中学二年のク
ラス写真を見ると、少なくとも二人
が七つボタンの服である。自分は背が
低く、顔しか写らず、ボタンは見えな
い。なお、写真には下駄の友もある。

二年生末のクラス写真に七つボタ
ンの友が複数いることから、服の入手
は二年生の時と考える。ただ、校章入
りの陶製ボタンは、私にとって戦争の
貴重な証人でありました。



鳥取東高の校章
(昭和24年制定)

制服の歩みから



運動会 体操服も鮮やかに



遠足風景 体操服(男子)



制服は昭和30年代から以前のまま



終戦直後、コール天、国防服、予科練習生用七つボタンも混在する二高時代の入学生、下駄の生徒も(前列の3人)(橋本喜雄氏(柏24)提供)



予科練の
桜に錨のボタン



鳥取第二高校
(新制高校発足の昭和24年)
(橋本喜雄氏(柏24)提供)



すべての金属
陶製の代用品



昭和26年 卒業式
女生徒も混ってくる



運動会 模擬戦

服装面から見た 東高の歩み

野田ふさこ(旧職員)

昭和三年頃、戦後の復興と化学繊維の急速な普及などの状況を反映、女子の制服は「新調するなら標準服」と緩やかな方向を示す程度であったが、三四年四月の新一年生より、制服着用となった。

戦後の物資不足の時代から、次第に美しい衣料が豊富に出廻るようになると、日増しに女生徒の服装が華美に流れだし、お互いにおしゃれ競争となり、情緒不安定となり、勉強に身が入らない」と音を挙げたのは、生徒側であった。

驚いたのはむしろ教師側で、先生の中には、苦しい思いで反対される方もあった。

それ故、制定に当たっては格別民主的に行うよう配慮し「全国情勢の視察」「制服の是非を問う全校アンケート」「PTS

A(父母・教師・生徒代表)との数回の討議」「三〇種類のデザインより、アンケートで選定」等の取り組みを経て左記の制服が制定された。



この流れを見ても、当時の東高生が如何に自主的、積極的であり、いかに民主的に事を運んできたかが分かる。

そして、又、学校の教育方針も生徒の自主性を尊重し、如何に進歩的だったかを物語る一コマであったと思う。

※「創立五〇周年記念誌」より抜粋。寄稿者の思いを損なわないよう原文に忠実に短縮した。

(文責 編集委員 谷口 肇)

特集

制服の歴史(続)

時代点描

西尾 清美(山2)



教育改革

GHQの改革要請の要点は、戦時教育及び戦後の教育改革の理念を教育界に普及することであつたように思う。

一九四五年八月、文民教育使節団が来日し、所謂、シビリアンコントロールである。

本県の文官は、櫛形に設えた白亜の洋館に住んで要務を執行していたが、家族団欒の中でも自由の改革思想を伝えようとしていたようにも見えた。旧友とそんなことを話しあつたことが思い出される。

遡る七十年の時空

我々は、直接戦場には出なかつたが、どこか落ち着かない雰囲気、漂つた世相であつた。我々は、戦後教育改革の渦中であつて、一見、敗者の憂き目にさらされているように思つたことである。しかし八十路を超えて思うに、あの時代は、初産の痛みであつたようにも思える。

発足当時の世情

世情は混沌として、産業復興の兆しは見えなかつたが、若者は、「教育

の主体は生徒である」と云つた新しい理念を受けて「これが青春時代だ」と叫ぶことができる新時代を迎えようとしていた。

校章図案作成

多くの方々の協力を得ながら、美術部が中心に図案作成に取り掛つた。かくて一九四九年八月三十日、三校舎一斉の投票によつて選定した。

三つのペンは自由叡智を象る翼は高く舞う鵬を象る

本は勉学を象る

高は高等学校の象徴

三つのペンは三校統合を象ると意味づけていたが、時代変遷によつて、統合は発展的に解散し、後々の昔話となつた。

三つのペンは、校歌の一節に、高らかに歌われている。

藤原登喜雄先生作詞

田中妙子先生作曲

「輝やく翼天翔る

自由叡智を象りて

しづかに冴ゆる夕星の

光きらめく三つのペン」

母校の発展を祈念する。



(註)(事務局)

☆西尾清美氏(山2)は、昭和二十四年に制定された鳥取東高の校章を考案された方です。

☆昭和二十三年四月、新制高校発足により鳥取第一高(旧一中)、第二高(旧二中)、第三高(旧高等女)、鳥取商業高(鳥取商業)、鳥取工業高

(鳥取工業、鳥取実高(新設)、市立高(旧市立高女)が発足。

〜一年間ののみ〜

☆昭和二十四年四月、新制高校三原則(学区制、男女共学、総合制)により再編統合された。

鳥取二高(普通科)・鳥取工高(工業科・立川)・鳥取実業高(農業科・湖山)が総合制の鳥取東高となる。

三つのペンは三校統合」とはこの三科合併の鳥取東高のこと。

☆この三科は、昭和二十八年にそれぞれ独立高となる。

女子の制服は多様

田口 久恵(山8)

ここに、昭和28年、東高に入学した時の写真がある。

スーツ、セーラー服、ボックススコートと、女子の服装は多種で、形も様々である。

終戦の年が小学一年生だった私たち、父母の着物を仕立て直した服を着て育つた時代の子で、中・高生の頃にやっと、洋品店で布を求め、縫って貰った服が着られた時代である。それもまだまだ、妹は姉のお下がりを着るのは当たり前、親戚や近所でもお古を貸し合つて着るのはめずらしくない、そんな時代で、こういう服装の写真になるのは当然で、何となく懐かしい。

ただ、西高が制服だった事もあつてか、この頃から「制服は是か否か」を論じ合う機会は持たれ始めていた。私は「否」の立場だった。「着る物ぐらい、個性を大切に自由に選び、こ

の時期、感性を育てたい」というのが主な理由だったと思う。ただ、まだまだ、その思いを満たせる物や豊かさはなく、ある物を自由に着るしかない生活の中での、理想的、願望的な理由だった気がする。

むしろ、あの軍国主義時代の制服に抱く「統制・監視・検査」といった抑圧的な雰囲気と逆戻りする恐れと反撥をどこかに感じて反対していたのが本音だったかも知れない。

同じ私たち、三年生の集合写真になると、私服は殆どなく、スーツ一色に変わっている。高校生らしいお洒落としてスーツを選び、経済的にもその願いが叶えられる豊かな時代になった事を如実に物語っている気が

する。

ただ、一見同じに見えるスーツも、襟の形、腰の絞り方、ブラウス等に微妙な違いがあり、その辺りの流行に神経を使い、秘かに競い合った想い出が、仄かに伝わってくる。

ひょっとしたら、この頃から、華美や競い合いへの危惧が芽生え始め、また、「統制、統一」への逆行の恐れや反撥心の薄らぎと共に、その後の「制服制定」への流れへと移って行ったのかもしれない。



(昭和28年4月 入学時のクラス写真)
(女子の服装は「ある物なら何でもよいという自由」)

学生帽着用は義務

高橋 祐樹（山39）

昭和60年に鳥取東高に入学。高校3年間、毎日千代川を越えて自転車通学をしていた。当時の自転車通学生の必須アイテムがあった。それは学生帽。自転車通学する際必ず学生帽をかぶって運転しなければいけないというきまりがあった。学生帽をかぶらずに登校した先輩たちが自転車通学専用の入り口で待ち構えている中井康友先生と山根幸信先生にこれでもか！という勢いで叱られている姿を何度か目にしたことがあった。そのため、雨が降ろうと雪が降ろうと学生帽は自転車のかごの中に常備させておいた。また、今でこそ標準マークが付いた学生服をほぼ全員が着用しているが、その当時は俗にいう『短ラン・ボンタン』の時代。学生帽が似合うはずがない。故に学生帽は『なかよし』手前からかぶり始めるのが学生たちの裏ルールとなっていた。（真面目な優等生はこの限りではない…）

ある日、いつものように家を出て学校に近づき学生帽を探すと見当たらない！？パニック状態のまま学校に到着すると案の定お二方の先生に止められ大目玉…顧問でもあった中井先生には大きなげんこつもいただいた。どうやら通学途中に落としてしまったようので、帰りの道中寂しそに道端に転がっている我が学生帽を発見…。

今、学生帽をかぶっている高校生は皆無。いつの間にかそんな校則もなくなってしまう。もしかすると学生帽時代の最後の古き良き時代に鳥取東高で学ぶことができた世代かもしれない…。

あの頃の校則（服装・頭髪検査）について

東 仁美（山42）



体育館に一緒に並び、その間を先生が一人一人チェック。今も同じですか？

制服や髪型が校則で定められた理由って何だったんでしょう。

スカートはひざ下10cm↓長くても短くてもダメ？その長さで脚が一番太く見える長さですよ。少しでも細くスタイル良く見せたい年頃なのに。

前髪は眉毛に掛からないように↓これ最悪です！カッコ悪いしみんな検査の日だけピンでとめておかしな髪型でしたよ。

昔から東高は『自由な校風』といわれていますが、制服や頭髪について『東高生としてふさわしい』は時代に沿って変化していくのでしょうか。

現在私が在住している広島市では様々な高校があり、制服着用は自由という私立学校もあります。政治家や有名人を多数輩出しており皆さんがその学校を誇りに思っているようです。ただ、生徒たちは自分自身で『自由』の意味を考えることができる生徒であることが条件のようです。

制服についての寄稿を依頼され当時の写真を探しました。キラキラとした時代が懐かし、東高で出会えた友、恩師への感謝の思いでいっぱい。

服装検査を「受けた」立場から「する」立場に変わって

松田 浩（山50）

校則にある頭髪や服装に関する規定をなくしたらどうなるのか。髪は伸ばしたい放題、ミサンガなどのアクセサリーも着きたい放題、ただど勉強は頑張る、そんな学校…。実際、それを売りに他校と差別化を図っている学校もあると聞きます。同じ教育を受けることができるが、頭髪や服装に関する校則のある高校、ない高校、今の中学生はどちらを選びたくなるのでしょうか。

東高の生徒はきちんとルールを守るといのは今も昔も変わりません。しかしそのルールのもと、いかにして自己主張をするかというぎりぎりのラインで勝負する生徒の数は明らかに減ってきていると感じています。

大人になってみればそんなところでアピールしなくても思うのです。が、そのようなことを繰り返していくことで大人になっていくのではないのでしょうか。そんな大人になる過程には、頭髪や服装に関する校則があつてよいのではないかと思います。

服装検査（現在は頭髪服装指導と呼んでいます）を通して生徒が大人になっていく、まさか生徒はそんな意味があるなんて想像もしていないことでしょう。決められたルールを守ることも大事ですが、そこに隠された意味に気付けるような生徒をこれから育てていきたいと思っています。

我ら同期生

美のラインダンス

山本 二郎（山4）

東高を卒業してから30年余りになります。卒業後の一時期は、同窓会関係、PTA関係、野球部関係、バレー部関係、バスケット部関係などに母校とどこかでつながっていました。

今回、『しのめ』の原稿を依頼されました。卒業後の経過年数が長いため、学生当時の出来事は記憶が失われたりおぼろの状態にあつたりいたします。残存する乏しい記憶の中で鮮やかによみがえる心の記録があります。

東高運動会とき3年A組が演じたラインダンスであります。多くの級友が集まって演技法を考案いたしました。コスチュームは各自が障子紙で製作いたしました。演技者の1人は、コスチュームの一部は姉さんから借りてきたと言って皆に見せてくれました。あ、ほんまもんだと叫んで皆はよろこびました。

全員のコスチュームは白色でありましたが、リーダーを務めた中尾さんのコスチュームの一部は赤で染められました。リーダーのタンバリンに合せて、足を上げたりひざまずいたりの演技を行いながらグラウンドを



一周いたしました。美しいあんなのであやつった華麗なダンスを演じたものでした。グラウンド一周したときに女生たちがくれた黄色い声援が今も耳から離れません。出演者13名の中、5名には終生お目にかかれません。写真をみつめると、懐かしさと悲しさが交互に私を訪れます。

山脈はまだ青い！ 山脈11回55周年同窓会

角田 正昭（山11）

昨27年11月13日夕方、鳥取ワシントンホテルプラザを会場とし、唯一のゲストとなった倉恒先生をお迎えして、8回目の同窓会を開催した。

44名の物故者に哀悼の意を捧げた後、宴が始まり55名の同期生はさまざまビール瓶などを持ってテーブル間を行き交い、談笑・歓声・フラッシュなどでざわめき、5年振りの再会に興奮していた。

中程に5月にあった関東甲信越同期会のDVDを映写して、しばらくの間、会場雰囲気は再統一した。



倉恒師は医者から禁酒されてはいしたが、雰囲気には酒も飲まねばという状況だったと察した。

祝宴の2時間半は誰もが瞬く間に終わったと感じていただろう、近くのホテルでの二次会には出席者の半数が詰めかけた。

終宴前の歌の斉唱は、当時は無かった「高校三年生」が予定外で所望された。しかし、我々の思い出の歌は、やはり「青い山脈」だった。

山12から二件の報告

松本 泰尚（山12）

周年の同窓会を一年早めて昨年6月に鳥取のワシントンホテルで行いました。首都圏、静岡、京阪神、岡山、



70人程が参加。いつものように盛り上がり2次会は美人ママの小さなスナック。2班に分かれて時差入店。日付けが変わるまで楽しんだ人も？いました。地元女性群の大きな力で大成功。次回も元気で会おうと声かけあつてお開き。みなさんありがとう。首都圏山12は恒例になった新年の集まり。今年も美術館。格調高く東京国立博物館。催事は「秦の始皇帝展、兵馬俑展」昼食は西洋美術館のカフェレストラン「すいれん」静岡からの参加もあり11名が集合。昼食をしながら論議のお勉強もしました。

実物の兵馬俑、「永遠を守るための軍団」の勇壮さと紀元前の出来事に圧倒されました。我々の年齢に必要なこと、教育（今日行く）、教養（今日用事がある）、教会（今日会う人がある）。大切な合言葉にしたいものです。

山脈25期 四十一周年記念同窓会

25期代表幹事 奥村 一成（山25）

山脈二五期は、平成二七年八月一日、白兔会館にて卒業四一周年記念同窓会を開催し、林益治、藤原修、鈴木興一、松村文夫、有田博充の各先生と百一二名の同期生が親しく飲食を共にしながら、大いに語り合う一時を過ごしました。

卒業後二〇、二五、三〇、三五と律儀に五年おきに会を重ねて来た私たちが、敢えて今回は六年の間を置いたのは、多くの者が還暦を迎えることと、同期藤原辰広さんが母校の校長職を務めていたからです。



会は、物故者への黙祷、山県さんの協力による全員集合写真、藤原さんの乾杯のあと、杉岡さん選曲の七〇年代サウンドのBGM、米沢さんが世に出した故入江さんのジャズピアノ演奏を聴き、吉村さんのどじょう掬いを観て、弥が上にも宴は盛り上がりしました。

東田元応援団長のリードで恒例のエールを交わし、次回四五周年の再会を約してお開きとしました。後日、山田・門脇両氏の尽力で、地元紙にひととき大きく参加者の写真が載り、同期皆で成し遂げた四一周年同窓会のよい記念となりました。

山脈31期 3年2組同窓会

2組幹事 見生 孝行（山31）

卒業後35年目に当たる昨年の8月15日（土）、ホテルモナークで、恩師の須崎博通先生にご出席いただき、クラス同窓会を開催しました。同窓会に向けて、10名のメンバーで準備会を発足、2度の打合せの際には懇親会を開いて結束を固めながら、クラスの連絡先確認など協力して準備を進めました。県外在住の方にも出席のお誘いをするなど、皆の努力のお蔭で、23名の懐かしい顔ぶれが集まりました。久々に母校の校



歌を斉唱し感動!!。須崎先生からは、当時のクラスの思い出などを交えてお話をいただきました。また、卒業アルバムを回し見しながら若かりし頃を懐かしみつつ、当時のリアルなエピソードに盛り上がりました。フリースピーチでは、全員がマイクを握って、一言ずつ近況などを披露し、欠席した方からのメッセージ集と当日撮影したばかりの集合写真も、即日お渡しすることができました。

東高卒業生であることの誇りと、いつまでも変わらない同級生との絆を再確認して、次回は、より美しい体型(?)で再会することを約束し、楽しいひと時を閉じました。

卒業30年記念同窓会

五百川尚宏(山36)

平成28年1月2日に昭和59年度卒業生卒業30年記念同窓会をホテルニューオータニ鳥取で開催いたしました。遠方より集まる同窓生もあり天候を心配していましたが、雪が降ることもなく天候に恵まれました。

同窓生109名の参加を得て、学年主任の濱田先生、3組の担任の白岩先生、5組の担任の藤原先生の3人の恩師にもご参会いただき盛大に開催することができました。

今回の同窓会を開催するにあたり、幹事・スタッフの皆が積極的に活動してくれたおかげで、とても良い同窓会になりました。東高時代の仲間や恩師のありがたさを実感できた1日でした。



鳥取東高等学校 昭和59年度卒業生「卒業30周年記念」同窓会

卒後20周年記念同窓会

言水さつき(山46)

去る平成27年8月13日、8名の恩師の先生にご臨席頂き、山脈46期生176名が、ホテルニューオータニ鳥取・鶴の間に集いました。

15人もの幹事団を組み、当日は恩師の先生を囲み、思い出話に花が咲きました。

クライマックスの校歌斉唱では、竹



校歌斉唱で熱くなった会場



ご臨席頂いた恩師の先生方

島一郎先生と元応援団員の号令で、全員が校歌を歌い上げ、会場全体が熱くなりました。そして、10年後の再会を強く約束し、無事に会を閉じました。

この鳥取東高伝統の同窓会は、皆様に育てて頂いた愛情と誇りをもう一度思い出し、今後の自分達の活躍を誓う会となりました。

また、この場をお借りして、本会を開催するにあたり同窓会の素晴らしいところをご指導下さった山脈46期生の先輩方に感謝御礼申し上げます。この絆こそが、鳥取東高の伝統なのだ、と、実感することが出来ました。

皆様今後とも、どうぞご指導下さいますようお願い申し上げます。

	H24	H25	H26	H27	H28
国公立大	184	158	157	165	199
私立大	348	352	343	407	349
短大	32	42	31	39	20
専修学校	62	52	72	65	82
計	626	604	603	676	650

主な大学の合格者数

京都大学	2	岡山大学	11	国際基督教大学	1
北海道大学	2	広島大学	6	東京理科大学	1
九州大学	1	山口大学	5	立教大学	2
神戸大学	3	愛媛大学	8	同志社大学	7
筑波大学	1	鹿屋体育大学	2	立命館大学	29
東京学芸大学	1	大阪府立大学	3	龍谷大学	18
金沢大学	1	兵庫県立大学	4	関西大学	9
鳥取大学	72	鳥取環境大学	6	関西学院大学	8
島根大学	23	下関市立大学	3	近畿大学	35

平成二十八年度

進路状況

平成二十八年度入試における本校の国公立大学合格者数は一九九名で、このうち現役生は一四五名。第二次ベビーブームの山が過ぎた平成六年度入試以降で最高の現役合格者数でした。地元鳥取大学に五十六名、島根大学が十七名、岡山大学十六名、広島大学六名など、現役合格者の七割が中国地方の国公立大となっています。

本年度は、昨年の理数の新教育課程先行実施に続き、新課程が五科で全面実施となる初のセンター試験でした。センター試験では、国語の平均点が昨年度よりさらに十点上昇した以外、全体的には昨年並みの状況

でしたが、理系の理科の負担は旧課程に比べ大きくなっています。本校生徒は、センター試験後の学習も地道に乗り切り、二次試験にチャレンジしていきました。

私立大学は出願自体が例年より少なめでしたが、看護専門学校については、受験した多くの生徒が合格していきました。また、警察官、消防官などに就職が決まった生徒もいます。

なお、過去五年間の合格者(現役・過卒の合計)の状況及び主な大学の合格者数は左の表の通りです。

【全国大会】

部 名	男女	大 会 名	結 果・成 績 等
バスケットボール	男子	全国高等学校総合体育大会	出場
柔 道		全国高等学校総合体育大会	出場
ボ ー ト		全国高等学校総合体育大会	準決勝敗退
陸 上 競 技		全国高等学校総合体育大会	出場
放 送		NHK杯全国高校放送コンテスト	出場
書 道		第9回全国高校生大作書道展	大作優秀賞
		第8回書道パフォーマンス甲子園	出場(6年連続6回目)

【県高校総体】

部 名	男女	種目・成績等	備 考
陸 上 競 技	男女	入賞8種目	中国大会出場
バスケットボール	男子	団体優勝	インターハイ出場
サ ッ カ ー	女子	団体優勝	中国大会出場
柔 道	男子	団体3位	インターハイ出場
	女子	団体3位	
ボ ー ト	男子	舵手付クオドルプル 優勝	インターハイ出場
		ダブルスカル 第5位	
	女子	舵手付クオドルプル 第3位	
		ダブルスカル 第4位	
水 泳	男子	総合1位	中国大会出場
	女子	総合2位	中国大会出場

【県高校総文祭】

部 名	男女	種目・成績等	備 考
吹 奏 楽		ソロ部門 ピアノの部 最優秀賞	
		フルート3重奏 銀賞	
		クラリネット7重奏 金賞	中国大会出場
		金管5重奏 銀賞	
演 劇		最優秀賞	県大会出場
放 送		アナウンス部門 優秀賞	全国大会出場
		アナウンス部門 2位	H28年度全国高総文祭出場
将 棋		3位	
美 術		佳作賞	4～6位相当

【各種大会】

部 名	男女	大 会 名	種目・成績等	備 考
陸 上	女子	鳥取県高校新人戦	個人	中国大会出場
バスケットボール	男子	鳥取県高校新人大会	3 位	
ソフトテニス	女子	鳥取県高校新人戦	団体、シングル、ダブルス	中国大会出場
サ ッ カ ー	女子	鳥取県高校新人戦	優勝	
ボ ー ト	男子	鳥取県高校新人戦	ダブルスカル1 位	中国地区予選会出場
柔 道	男子	鳥取県高校新人戦	団体、個人	中国大会出場
	女子	鳥取県高校新人戦	団体、個人	中国大会出場

部活動報告

生徒会 田中 智基 (山50)

鳥取東高校は文武両道を掲げ、それを高いレベルで両立させようと、生徒・職員ともに日々精進しています。昨年度も多くの部が活躍いたしました。

文化庁では、書道部が今年も全国高校書道バファーマンズ甲子園に出場しました。今年度の作品は、「聞け！夢のおもちゃ箱」というテーマで構成し、今までの伝統にとらわれることなく、明るくポップな世界観を見事に表現し、6年連続の出場を果たしました。また、全国高校生大作書道展、小畑梨奈は大作優秀賞を受



も大活躍の書道部
でした。

放送部は今年度もNHK杯全国高校放送コンテスト（アナウンス部門）に岸本真央さんが出場を果たしました。

運動部では今年、男子バスケットボール部、柔道部、ボート部、陸上競技部が全国大会に出場し、総勢22名の生徒が鳥取東高の看台で戦い抜きま

男子バスケットボール部が全国高校総体に7年連続の出場を果たし、中国高校バスケットボール選手権では5年ぶりとなる3位入賞となりました。

昨年、全国選手権大会に出場を果たした柔道部。今年度は更に9年ぶりとなる全国高校総体に出場し、更なる成長を遂げました。また今年、本校のクラブで最初となる全国大会への出場権を勝ち取り、幸先の良いスタートを切ってくれました。

陸上競技部は昨年に引き続き都道府県女子駅伝に鳥取県代表として出場した北脇亮子は、中国大会でも一五〇〇〇mで優勝し、女子陸上競技部としては山下佐知子さん以来のインターハイ出場を果たしました。

ボート部においても3年ぶりのインターハイ出場を果たし、国体への出場も果たしました。

県総体においては、水泳部が男子は

2年連続の総合優勝。個人でも男女合
わせて41名が入賞し中国大会へと駒を
進めました。涙をのんだ女子サッカー
部は準優勝に終わりましたが、今後に
つながる経験となりました。

県新人戦では、ポルト部のダブルスコアでの優勝をはじめ、女子バレー部の準優勝など多くの部が中国新人戦への出場を果たし、幸先の良いスタートを切りました。



その他にも県
総体・県新人大
会等での上位入賞や中国大会へ数多くの
部が出場し、学校全体に活力を与えて
くれました。また、学校内において
も部に所属している生徒は挨拶・服装
礼儀などがしっかりしている者が多く、



学校全体に締めりある雰囲気を作ってくれています。

各部活動が切磋琢磨することがお互いに刺激となり、ともに高め合う。大会結果を讀みあい、そのプロセスの中で生徒・教員が繋がっていく。そして

高校野球1回戦
東高生

近年、県外大会で同窓会の皆様の声援を受けることが多くなりました。全国大会の日程、会場等を本校HPにて随時お知らせしております。今後も大会にぜひ足を運んでいただき、後輩たちを生の声で応援していただければ幸いです。

編集
後記

木下圭史郎 (山25)

集記
編後

正月二、三日に行われる「大学箱根駅伝」をテレビで何気なく観ていたら、今
回が九十三回大会ということだった。奇
しくも本校の創立九十三周年（本年六月
二十三日が九十四周年）と同じことに気がついた。駅伝中
継の合間に過去の名勝負が放映されるのもおもしろい。
名勝負で思いついたが、人口最少県の鳥取県が、平井
知事の「スタバはないけどスナバ（砂場）はある」や「水木し
げるロード」などで、今年（二〇一六年）注目されそうな都
道府県（不動産・住宅情報のアットホーム社主催で見事
全国十位となったり、若美町が「住みたい田舎」（雑誌「田
舎暮らしの本」）主催）で堂々の全国一位となったりとやた
ら注目を浴びてきた。

我が鳥取東高もそんな目置かれる高校でありたい。九十二年間幾多の名勝負が繰り広げられたことと思うが九十四周年（二〇二二年）とたすぎが途切れることなく、しっかりと次の走者へとつないでほしい。（もちろん走者は東高生の皆さん）そういう願いを抱きつつ編集後記とします。